



源義経
壇之浦大合戦之図
(下関市立歴史博物館)

源平の息吹が宿る下関 栄枯盛衰の軌跡

壇ノ浦の戦い

元暦2年(1185)3月24日、長きにわたり覇権を争った源平両氏の最後の戦いが壇ノ浦を舞台に起きた。『吾妻鏡』によると、奥津(満珠島・干珠島のあたり)に陣取った源氏軍に対し、平氏は本拠の彦島を発して田之浦沖に移動している。壇ノ浦で激突した両勢であったが、優勢に戦いを進めた源氏が勝利を得ることとなり、一時は栄華を極めた平氏が敗北。わずか8歳の安徳天皇は二位尼に抱かれて入水した。

平知盛
源氏雲浮世面合
(国立国会図書館デジタルコレクション)

源氏 勝者の足跡

源平最後の戦いの舞台となった関門海峡。屋島の戦いで勝利して勢づく源義経軍が海上に船を浮かべ、九州の平氏勢を駆逐した源範頼軍が陸に騎馬をそろえ、源氏勢は平氏勢を海陸から追い詰めた。

源義経
長門国赤間の浦に於て源平
大合戦平家亡びの図
(下関市立歴史博物館)



みなもとのよしつね
源義経
前賢故実(国立国会図書館デジタル
コレクション)



大歳神社の鳥居には、文久2年(1862)に寄進した白石正一郎の名前が刻まれている。



みうら よしずみ
三浦義澄
前賢故実(国立国会図書館デジタル
コレクション)



満珠島・干珠島は神功皇后が龍神から授けられた潮満つ珠・潮干る珠から生まれたという。



どい きわひら
土肥実平
前賢故実(国立国会図書館デジタル
コレクション)



土肥山の頂上にあった碑は、昭和58年頃に土肥山公園へ移されたという。



①大歳神社

源義経が有明山に陣を置き、小さな松を植えて、浅間神社の大歳神を祀り桑の木を使って弓矢を作り、神前に捧げて戦勝祈願を行ったといわれる。その弓矢をもって対岸の彦島に在る平知盛の軍へ射込んだので、驚いた平氏勢は壇ノ浦へ船を進め、源平が激突したと伝わる。

JR下関駅から徒歩3分



②唐櫃山

小唐櫃山・大唐櫃山からなる唐櫃山は、壇ノ浦の戦い後に源義経が逃げる平氏の残党を追捕するときに陣取ったとされる。また、義経が軍功を後世に示すため、武具や甲冑等を納めた石の唐櫃を埋めたと伝わっている。

JR下関駅からバス30分「パルク浜浦台」下車
徒歩5分



③満珠島・干珠島

満珠島・干珠島は、忌宮神社の飛地境内。壇ノ浦の戦いに際し、彦島を本拠にした平氏に対して、源氏は満珠島・干珠島の辺りを本拠にしたという。その際、義経率いる源氏勢は、すでに関門海峡の潮流を目にしていた三浦義澄を先導としている。

御船手海岸: JR下関駅からバス21分「松原」下車
徒歩10分



④串崎城址

壇ノ浦の戦いで源義経は、海峡の潮流を熟知した串崎船12艘を味方にしたことで、戦いが有利に運んだという。なお、建武3年(1336)足利尊氏・直義は、この時の船頭たちの子孫が操る船を利用して上方へ向い、湊川の戦いで勝利し、室町幕府を開いた。

JR下関駅からバス20分「市立美術館前」下車
徒歩10分



⑤土肥山公園

土肥山公園の片隅には「土肥次郎実平之城趾」が刻まれた碑が建つ。公園の南側にそびえる土肥山は、壇ノ浦の戦い後、源頼朝が長門国の守護に命じた土肥次郎実平が平氏の残党を追討した際に居城としたことに由来するという。

JR下関駅からバス22分「城下町長府」下車
徒歩5分

平氏 敗者の足跡



平知盛

大日本歴史錦絵(国立国会図書館デジタルコレクション)

平氏は九州の兵を味方につけ、門司関を固めることとし、彦島を本拠と定めた。源氏が満珠島・干珠島に進軍したことを聞いた平知盛は、軍勢を率いて、彦島を離れ、赤間関を通り過ぎ、田野浦沖に陣を置く。そして、きたるべき決戦に備えたのである。

⑥西楽寺

建治2年(1276)一遍上人の従者で平忠政の孫でもあった西楽法師によって開かれた。本尊の阿弥陀如来座像は平重盛(平清盛の嫡子)の持仏で、守り本尊であったと伝えられ、下関市の有形文化財に指定されている。

JR下関駅からバス10分「本村」下車
徒歩3分

⑦厳島神社

壇ノ浦の戦いで敗れた平氏は、船の中に祀っていた守護神を海岸に放置し、そのまま敗走を繰り返した。後に長府の人が、お告げによって発見し、厳島神社が建つ場所に守護神を祀ったことが由来として伝えられている。

JR下関駅からバス4分「厳島神社前」下車
徒歩2分

⑨立石稻荷神社

元暦元年(1184)平氏とともに山城国伏見稻荷の分霊が西国へ下り、壇ノ浦の戦いでは安徳天皇の守護神となったといわれる。平氏滅亡後は下関にとどまり、海難事故を防ぐ航海の守り神として知られる。

JR下関駅からバス12分「御裳川(みもすそがわ)」下車、徒歩4分



⑩みもすそ川公園

早鞆の瀬戸を臨むみもすそ川公園には「壇ノ浦古戦場址碑」や「安徳帝御入水之处碑」などがある。二位尼の辞世「今ぞ知る みもすそ川の 御ながれ 波の下にも みやこありとは」が地名の由来と伝わる。

JR下関駅からバス12分「御裳川(みもすそがわ)」下車すぐ



⑧赤間神宮

壇ノ浦の戦いに敗れ、わずか8歳で関門海峡に入水した安徳天皇を祀る。水天門は鮮やかな竜宮造りで、「海の中にも都はある」という二位尼の願いを反映したものとされており、国登録有形文化財に指定されている。また、境内には平氏ゆかりの碑などが点在、貴重な資料を展示する宝物殿もある。

JR下関駅からバス10分「赤間神宮前」下車すぐ



あんとくてんのうごりょう

安徳天皇御陵

西日本で唯一の御陵。陵は円墳で玉垣と土堀で二重に囲まれている。なお、下関市豊田町地吉には、安徳天皇御陵墓参考地もある。

へいけいちもん

平家一門の墓

(七盛塚・小松塚)

小松塚は原田種直が建てた平有盛(平重盛の子)の墓といわれ、下関市竹崎町の丸山にあったものを移したと伝わる。



壇ノ浦の戦いゆかりの地



こぼれ話 平家塚

壇ノ浦の戦いで敗れた平氏の人々が落ちのびたといわれる高畑集落にある。「平家やぶ」とも呼ばれ、小さな五輪塔が立ち並ぶ様子は異様な雰囲気を出す。また、奥へ奥へ歩を進め、水神社を通り過ぎると、旗かけの松跡碑が目に入ってくる。落ちのびた平氏の人々が赤い旗を松の木に立てかけて休息したと伝わっている。



こぼれ話 海豚(イルカ)

壇ノ浦の戦いの最中、源氏方からイルカの大群が平氏方へ向かってくる。平宗盛に命じられた小博士(陰陽師)の安倍晴信は「イルカが水面に出て呼吸し、水中に戻れば、源氏が滅ぶ。平氏の船の下を這うように通り過ぎれば、平氏が危ういだろ」と占った。すると、イルカが平氏の船の下を通り過ぎ、晴信は平氏が敗北することを伝えた…。



こぼれ話 平家の一杯水

平家の一杯水と刻まれた碑が建っている。碑の脇にある階段を降りると、砂浜には小さな社があり、満潮時には近づくことができない。壇ノ浦の戦いで手傷を負った平氏の武将は命がけで岸に泳ぎ着き、この地で湧き水を飲み、喉の渇きを潤した。しかし、夢中になって2度目を口にしたら、真水が塩水に変わっていたという。



こぼれ話 源平激突の場所

『吾妻鏡』によると、三浦義澄の先導により源義経率いる源氏軍は壇ノ浦の奥津辺り(満珠島・干珠島の付近)といわれている)に到着。これを聞きつけた平氏は本陣の彦島を発し、赤間関を過ぎて田野浦沖に碇泊した。そのため、両軍が激突した場所は、海峡の西側と考えられる。



こぼれ話 源氏勢の挟撃

『源平盛衰記』には、九州に渡っていた源頼朝が率いる3万余騎が響を並べ、源義経が率いる船が海上に浮かび、平氏が東西南北を塞がれて漏れ逃げることはできない様子が記されている。源氏勢が陸と海から挟み撃ちにしたことで、平氏勢に寝返りなどが生じるなど、勝敗に影響を与えている。

こぼれ話 義経の八艘飛び

源義経を追いかけ馳せまわる平教経。その教経に鉢合わせた義経は敵わないと思い、2丈(約6m)ばかり離れた船にゆらりと飛び退いた。この早業に観念した教経は追うのを諦め、安芸太郎・次郎を抱えて入水したという。『平家物語』には、義経が1回飛び退いたと記されているが、後に8艘の船を次々に飛び移ったと伝えられるようになった。

こぼれ話 赤間神宮小門御旅所

壇ノ浦の戦い後、伊崎に住む中島組という漁業団が丸太船4隻で、網を張り小門海峡(おどかきょう)で漁をしていたところ、安徳天皇の御遺体を拾いあげ、現在の場所に安置したという。今では「御旅所」とよばれている。なお、御旅所よりさらに先に進むと、対岸の彦島には「きぬかけ岩」が見える。



こぼれ話 耳なし芳一

赤間神宮の境内にある芳一堂。小泉八雲の『怪談』で紹介されている「耳なし芳一」を祀っている。原作は「耳切れうん市が事」『曾呂利物語』(1663)といわれ、平氏とは無関係な内容で舞台も善光寺である。その後、様々な形で物語の内容が変遷し、「琵琶秘曲位幽霊」『臥遊奇談』(1782)でほぼ現在の内容ができあがったという。



北九州市のゆかりの地については、パンフレット「壇ノ浦合戦絵巻」(関門海峡観光推進協議会)が参考となります。

いにしえより海峡を彩る一大絵巻

毎年、初夏の訪れを告げる5月2・3・4日の3日間、下関市で行われる盛大な祭り「しものせき海峡まつり」。
源平最後の戦いとなった関門海峡を舞台にした源平武者行列、源平船合戦、源平弓合戦、先帝祭。下関市民約1,000名が参加して海峡沿いを練り歩く八丁浜総踊り。宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘で有名な巖流島で行われる巖流島フェスティバル。下関ブランドの代表格である河豚(ふく)を巨大な鍋で調理したジャンボふぐ鍋など、多彩なイベントで多くの観光客が賑わう。

しものせき海峡まつり



上臈道中



上臈参拝



源平船合戦



八丁浜総踊り

5月2日

御陵前祭・平家一門追悼祭・安徳帝正装参拝

5月3日

先帝祭[上臈道中・上臈参拝]

源平まつり[源平船合戦・源平武者行列など]

八丁浜総踊り

5月4日

巖流島フェスティバル

本殿祭・出御祭・御神幸祭

しものせき海峡まつりの詳細については、HP等でその都度ご確認ください。

源平

Night in

赤間神宮

下関の歴史を凝縮した一大舞台劇

赤間神宮の境内を舞台に、壇ノ浦の戦いで滅亡を余儀なくされた平家の悲哀、そして源氏を勝利に導いた源義経の八艘飛び、二人の剣豪 宮本武蔵・佐々木小次郎が激突した巖流島の決闘、幕末に下関で高杉晋作が創設した奇兵隊の躍動など、下関の歴史を彩る名場面を凝縮した幻想的なエンターテインメントとなっている。

- ◆開催期間 10月の土曜日
- ◆上演時間 20時00分～21時20分(開場19時00分)
- ◆場所 赤間神宮
主催/しものせき観光キャンペーン実行委員会
運営/下関イベントネットワーク協議会
協力/赤間神宮・下関邦舞連盟・宣島きもの研究会・下関理美容組合・
下関平家踊保存会・下関市民ミュージカルの会(順不同)

源平 night in 赤間神宮の詳細については、HP等でその都度ご確認ください。



義経八艘飛び



怪談 耳なし芳一



巖流島決闘



奇兵隊



海峡上臈絵巻



エピローグ

今に伝える

火の山

瀬戸内海国立公園の中にある関門海峡に臨む小高い山。壇ノ浦の古戦場を眼下に眺めることができる。古代、山頂に敵の襲来を報せるための狼煙台が設置されたことが名前の由来といわれる。

JR下関駅からバス15分「火の山ロープウェイ」下車
ロープウェイ(運行は3月中旬～11月下旬)で山頂へ

海峡ゆめタワー

3層からなる展望室は、日本有数の高さを誇り、瀬戸内海・関門海峡・巖流島・九州の連山そして響灘(日本海)を一望できる。壇ノ浦の古戦場を遠目に眺めることができる絶好のビュースポット。

JR下関駅から徒歩10分



しものせき水族館 海響館



関門海峡の潮流を再現した大水槽や世界中のフグの仲間の展示、世界でも数少ないシロナガスクジラの全身骨格標本(実物)、日本最大級のペンギン展示施設である「ペンギン村」など見どころがたくさん!

JR下関駅からバス5分「海響館前」下車
徒歩3分

下関市立歴史博物館



長府毛利家の遺品、幕末維新期の資料を中心に構成され、下関の歴史を豊富な資料から紹介する。特定のテーマを設けた企画展示も必見。また、坂本龍馬に関する資料の収蔵数は日本一を誇る。

JR下関駅からバス25分「城下町長府」下車
徒歩10分

三軒屋海岸

串崎城の一部であった三軒屋。野生のスナメリを観察できる海岸でもあり、満珠島・干珠島、関門海峡を一望できる穴場スポット。

JR下関駅からバス20分「市立美術館前」下車
徒歩10分



A C C E S S

●飛行機



●新幹線・電車



しものせき観光キャンペーン実行委員会

一般社団法人 下関観光コンベンション協会
〒750-0018 山口県下関市豊前田町3-3-1
TEL:083-223-1144 FAX:083-223-2443
(問い合わせ 8:30~17:15)※土・日・祝日除く
<https://www.stca-kanko.or.jp/>

下関市観光スポーツ文化部観光政策課
〒750-8521 山口県下関市南部町1-1
TEL:083-227-3305 FAX:083-231-1853
(問い合わせ 8:30~17:15)※土・日・祝日除く
<https://shimonoseki.travel/>